

平成 27 年 11 月

語り部：一色 茂美

皆さんは両親や祖父母から松山が空襲にあったことや戦争の話を聞いたことがあるだろうか？手を挙げてみて下さい。だいぶ昔のことなので、聞いたことがない人がほとんどだと思う。私は昭和 3 年生まれの 87 歳である。振り返ってみると私が小学生、中学生の頃は、毎日戦争に明け暮れていた。

私が小学 4 年生の昭和 12 年 7 月 7 日に支那事変が起こった。中国は日本の 10 倍の大きさ位ある。中国の盧溝橋という所で日本の兵隊と中国の兵隊がお互い演習をしていて、いつの間にか撃ちあいになり、それが元で武力衝突が起こった。それが原因で戦争が起こった。その戦争を日清事変と呼んでいた。北京・南京など大きな町も襲いにいき、中国全体に日本の兵隊が広がって行った。戦争は日に日に大きくなっていった。松山からも堀之内から出征した。私の叔父も堀之内にあった二十二連隊に所属していたので、叔父を含め約 2,000 人の兵士が出征するのを、叔父について三津まで見送りに行った。三津には、当時、日本一大きかった戦艦『陸奥』が来ていた。近所の人も戦争に行っていたが、負傷し、赤十字で治療して帰ってきた。

昭和 16 年 12 月 8 日、私が朝食を食べていた時ラジオから、「大本営発表。帝国陸海軍は、西太平洋上において米英と戦争状態に入れり」と放送があった。そのことは今でも頭から離れない。ハワイの真珠湾に日本の軍隊が攻撃した。12 月 8 日は日曜日だったので、兵隊は休んでいた。船には兵隊がいなかった。敵の抵抗もないと思い、日本は攻撃した。軍艦や駆逐艦などを攻撃した。それが戦争の始まりとなって、マレー半島、フィリピンと戦場を広げていった。いたるところで優勢に戦っていた。

アメリカは、物も資源も豊富なので、飛行機や軍艦を大量に造った。飛行機では、B29 という大きな飛行機を造った。爆弾を積んで日本に攻めようと考えた。それから、昭和 19 年 11 月 24 日の東京空襲を皮切りに全国各地で空襲を始めた。空中戦も行われていた。42 機を打ち落とすこともあった。

松山でも昭和 20 年 3 月 19 日、アメリカの空母艦載機のグラマンが約 150 機飛んで来た。日本の戦闘機 50 機が飛び、南の山の方で空中戦があり、グラマンを 42 機撃ち落とすと新聞で大戦果をおさめたと報じられた。5 月 4、10、14 日には、今の松山空港である松山航空隊が攻撃を受けた。

昭和 20 年 7 月 26 日は、忘れもしない松山大空襲のあった日だった。この日の夜は、静かによく晴れて、月もよく見えていた。もう寝ようとしていた夜 11 時過ぎ頃、ラジオから警戒警報が鳴り、B29 の編隊が豊後水道を北上していると放送があった。間もなく空襲警報が発令された。B29 の編隊がやっ

て来て、2時間余り空襲を受けた。B29は上空1万メートルから空襲をしてきた。最初は古町駅付近上空に照明弾を落とした。照明弾は焼夷弾を落とす前に、松山の家などを把握するためだった。上空は真昼のような明るさだった。その後、焼夷弾を次々と落としていき、松山の街は火の海となった。松山城の天守閣が赤く映えわたる光景はいまだに忘れることができない。この空襲により、市民の大半は逃げるのに、慌てふためいてごった返した。空襲の夜はほとんど眠れず、家を捨て郊外へ逃げるのに一生懸命だった。私たちのところにも、市内から家財道具を持って逃げてきた人もいた。日頃防火訓練をして逃げる準備をしていたが、火の海となったため、どうにもできなかった。

私は、裏庭の防空壕に入って、空襲の様子を見ていた。私家にも焼夷弾が落ち、家が焼け始めたので家族全員でバケツリレーをして火を消した。家の門にも焼夷弾を落とされた。その最中に納屋も燃え始め、中には麦を入れていたので、家族3人で朝5時ごろまで一生懸命消火活動をしたが、半分は焼けてしまった。

隣の家にも焼夷弾を落とされ、火事になり、家の人たちはみんないなくなっていた。隣の家は、みんなが逃げてしまったので、大きな声で鳴いていたが焼け死んでしまった。私家の牛は父が逃がしたので、探していると針田町で助かった。牛も私のことが分かったようで、しっぽを振って寄って来たので連れて帰った。おしりに焼夷弾が落ちたようで、痛々しかった。家の裏に50キロ爆弾の不発弾が落ちていた。とても大きな爆弾でびっくりした。田んぼの中にも焼夷弾の不発弾が10～12本ほどあった。相当な数の焼夷弾を落とされた。私の友人で不発弾をいじってケガをした者もいた。

翌朝、松山市街地に出てみると、県庁、市役所、裁判所、銀行、図書館ぐらいいしか残っていなかった。アメリカは日本に木造家屋が多いことを知っていたので、焼夷弾を使った。焼け残ったのは、鉄筋コンクリートの建物だけだった。

約2時間半の松山大空襲の被災状況は、当時の松山市の人口は約11万7400人で、そのうち約53%の62,200人が被災した。市内全26,000戸のうち、約55%の約14,300戸が被災した。死者は251名、行方不明は8名、負傷者は約800名とされる。

アメリカは、日本には木造家屋が多いことを知っていたので、焼夷弾を使った。市内では、県庁、市役所ぐらいいしか残らなかった。空襲を受けた際、川へ逃げ、橋の下に逃げた。松山市全域は焼夷弾攻撃により大きな被害をもたらした。日本のいたるところで同じような体験をした人がたくさんいる。日本全体が大きな被害をうけた。

これからも平和で安らかな時代であってほしい。今日話したことを後世に伝えてほしい。戦争を体験し、大変なものだった。身を持って学んでき

た。戦争がいかに怖いものかを知ってもらえたと思う。忘れないでいて欲しい。戦争だけはなにがあっても避けてほしい。

質疑応答・感想（約 5 分）

Q：戦争の後の生活はどうだったか？

A：負けたことによって食生活は大変だった。いろんな商売人が来て物を売りつけたりしていた。お米や麦や野菜などはなかなか手に入れる事が出来なかった。物々交換がいろんなところで行われていた。

- ・教科書に載っていないことが知れて良かった。
- ・祖父・祖母に話を聞いたことが無かったのですごくいい経験になった。
- ・おじいちゃんから話を聞いたことはあったが、松山についての話を聞くことができてよかった。家族で話してみたい。
- ・松山の事をしらなかった。戦争の理解が深まり、戦争を無くしたいとおもった。